

環境負荷の低減や資源循環の取り組みを推進しています

環境負荷低減の目標と実績

地球環境委員会では、「地球温暖化の防止」や「資源循環と資源の有効活用」を目的として「地球環境憲章」と「環境方針」のもと、環境負荷低減に取り組んでいます。

2016年度～2018年度の3ヶ年計画の目標値をCO₂排出量と廃棄物排出量の売上高原単位で2015年度を基準年として毎年1%削減することと決めました。従って、2018年度は、それぞれ、2015年度比3%削減を目標値として取り組みました。

2018年度の実績を下表に示します。CO₂排出量原単位は2015年度比7.8%削減、廃棄物排出量原単位は同12.6%削減となり、目標値をクリアできました。

目標を達成できた要因は、CO₂排出量に関しては、大きな電力を使用する鋳物製造部門の生産や工程の合理化、全国の営業部門あがての省エネルギーへの取り組みによるものと考えられます。また、廃棄物に関しては、鋳物製造部門の生産と工程の合理化によって鋳さいの発生量が削減されたことが大きく影響していると考えられます。

	年度 指標	2014	2015 (基準年)	2016	2017	2018		
						2018 増減 (目標値-3%)	評価	
地球温暖化防止	CO ₂ 排出量原単位 (kg-CO ₂ /百万円)	337	314	338	308	289	-7.8%	◎
	エネルギー使用量原単位 (MJ/百万円)	6,666	6,238	6,643	6,135	5,832	-6.5%	◎
資源有効活用	廃棄物排出量(総量) (ton)	2,399	2,252	2,242	1,976	2,058	-8.6%	◎
	廃棄物排出量原単位 (kg/百万円)	36.2	32.5	33.7	27.9	28.4	-12.6%	◎

評価 ◎:達成 ×:未達成

地球温暖化防止の取り組みと省エネ法対応

カワイグループでは地球温暖化防止の取り組みを環境経営の重点項目と位置づけ、下記の省エネルギー施策を実施することによって、エネルギー使用によるCO₂排出量の削減を推進しています。

CO₂排出量削減への取り組み

- ・省エネルギーに配慮した工場設備の導入
- ・LED照明への更新
- ・電力会社と共同の定期的な省エネ診断の実施
- ・オフィスでの「クールビズ」「ウォームビズ」運動の実施

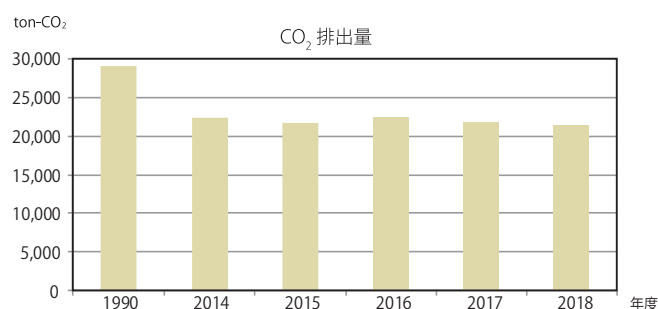
上記の取り組みに加えて、工場の統廃合や海外移転にともない、国内の生産系事業所のCO₂排出量は大幅に削減されました。カワイグループ全体の2018年度のCO₂排出量は京都議定書基準年の1990年度に比較すると28.1%の削減となっています。

省エネ法(「エネルギー使用の合理化等に関する法律」)は、一定以上のエネルギーを使用している会社(特定事業者)にエネルギー使用の合理化のためのエネルギー管理を義務づけ、エネルギー使用量の実績報告や中長期の省エネ計画を届け出ることを規定しています。カワイグループでは(株)河合楽器製作所、カワイ精密金属(株)、(株)カワイキャスティングが特定事業者に、ピアノ製造の竜洋工場、金属加工のカワイ精密金属(株)本社・浜松工場、鋳鉄鋳物製造の(株)カワイキャスティングの3工場が第二種エネルギー管理指定工場に指定されています。

2018年度は、(株)河合楽器製作所、カワイ精密金属(株)、(株)カワイキャスティングの3社とも、省エネ法の事業者クラス分け評価制度にもとづく優的事业者のSクラス*の評価を受けました。

(*:エネルギー消費の5年間平均原単位を年1%以上削減する努力目標達成)

現在、多くの生産系事業所でISO14001(環境マネジメントシステム)を導入しており、今後も継続的にエネルギー使用量とCO₂排出量の削減に取り組んでいきます。



廃棄物削減の取り組み

廃棄物に関して排出量の削減とともにリサイクルによる資源循環の取り組みが重要な使命と認識して取り組んでいます。

カワイグループの廃棄物排出量は、2012年度にピアノフレーム製造の(株)カワイキャストイングがグループの一員となり、鋳物製造時に生じる大量の鋳さいが産業廃棄物として排出されたため、3,203tonにまで増加しました。

その後、(株)カワイキャストイングは生産ラインの合理化、生産効率の改善に取り組み、2018年度のカワイグループの産業廃棄物排出量は2,058tonに減少、2012年度比で36%削減、3か年計画の基準年2015年度比で8.6%の削減を達成することができました。

廃棄物の再資源化率についても、当初、(株)カワイキャストイングの再資源率が小さかったために、カワイグループ全体の再資源化率に大きく影響しましたが、その後、(株)カワイキャストイングで鋳さいの路盤材などへの活用を進めたことにより、(株)カワイキャストイングの再資源化率が2012年度39%から2018年度73%に改善し、カワイグループ全体の再資源化率は2012年度57%から2018年度85%まで向上しました。

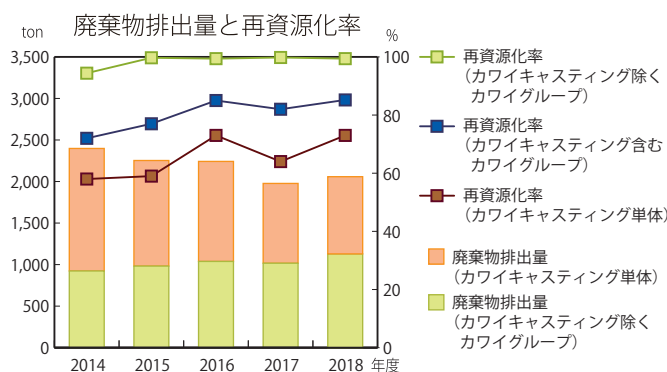
なお、(株)カワイキャストイングを除くカワイグループの産業廃棄物排出量は、基準年2015年度982tonに対して2018年度1,128tonと15%増加しました。また、再資源化率は99%以上を継続維持しました。

(株)カワイキャストイングに次いで多くの産業廃棄物を排出している竜洋工場では、産業廃棄物の木くず、木粉を製紙原料、ボード原料、堆肥、燃料等に活用し、フェルト屑は堆肥化などに、塗装廃棄物は無害なエコストーンに活用することなどにより、再資源化率100%を達成しています。

今後もグループ全体で廃棄物排出量の削減、再資源化率の向上に取り組んでまいります。



塗装廃棄物の再利用の例の展示 (竜洋工場)

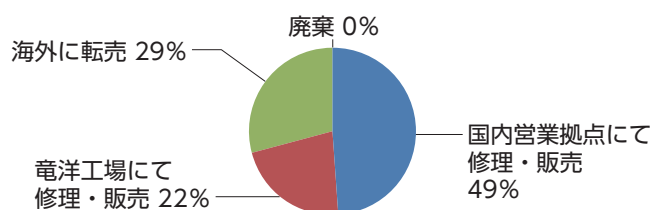


リサイクル・リユースの取り組み

循環型社会形成推進のための拡大生産者責任の考え方を踏まえて、1998年に(株)ピアノリサイクルを設立し(現在は(株)河合楽器製作所に吸収合併)、ピアノの再生と再使用・リユースを推進しています。現在、国内統括部のリサイクル担当グループが竜洋工場内で本事業を担当しています。また、日本国内の営業拠点においても下取りしたピアノを再生し、新たなお客様のもとへお届けしています。

2018年度に国内で約1000台のピアノが再生、リユースされました。そのうち、29%は輸出され、世界の各地で使われています。

下取りしたピアノの再生リユース (2018年度)



メーカーによるピアノ再生

メーカーだからできる仕事があります。ピアノづくりに精通した経験豊かな専任技術者が、古いピアノでも全面オーバーホールすることが可能です。弦・ハンマー・アクションの交換から全面塗装までお客様のニーズに応じたピアノ再生を行っています。再生は、ピアノづくり90年の製造部門で長年の経験を持ち、塗装技術、木工技術、調律技術など、その道の専門家がそれぞれ担当しています。その仕上がりは、多くのお客様から好評をいただいています。また、カワイピアノなら純正パーツによる修理・再生も可能で、大きな魅力となっています。



専門家による修理・再生